

台風の経験から学んだこと

石巻市立湊小学校

六年 松川 心海

最近、テレビや新聞で、自然災害のニュースをよく見ます。私の家や学校は北上川やがけのある山が近くにありす。川がはくずれたり、通学路にもなっているがけがくずれないかいつも心配になります。近所の人たちも、いつ災害が来るかおびえていることもあるかと思ひます。

去年の秋、学芸会の前に大きな台風が来ました。両親は車を高い所に避難させました。その後は、寝れないで一晩中起きていたそうです。最初に寝てしまった私は、そんなことを全然知りませんでした。話を聞くと怖くなりなりました。

延期された学芸会も終わり、一番最初に思ったことは、台風も、外は東日本大震災と同じだなあと思ひました。雨水や泥が道路にくさ人残っていたし、家の中にも入った人もいたようです。私の家は、何もなかつたけ

みなと

まつかわみづな

れども、もし被害を受けていたらと不安になりました。

災害から身を守るためには、ハザードマップで避難場所を確認したり、いつでも逃げられる準備をすることが大切だと思います。いつでもどこで起きるか分からないから、ニュースで情報を確認することも必要だし、命を守る行動が最優先で、一人一人が「明日は我が身」と思うことも大事です。

台風の時に、家や道路を修理をするたぐさ人の人たちを見ました。みんな大変だなあと思いました。さらに、今まで気づかなかった山崩れをなくすために木を切る人たちや、防波堤を作る人たちのごとも知ることができました。

こんな経験をした私たちは、これからのために、災害コミュニケーションや伝承館をつくったり、語り継いでいくことが大切だと思います。そして、もっと大切だと思ったりすることがあります。それは、今回の台風の時、父の友だ

